

カナダの金融市場動向 Weekly Report

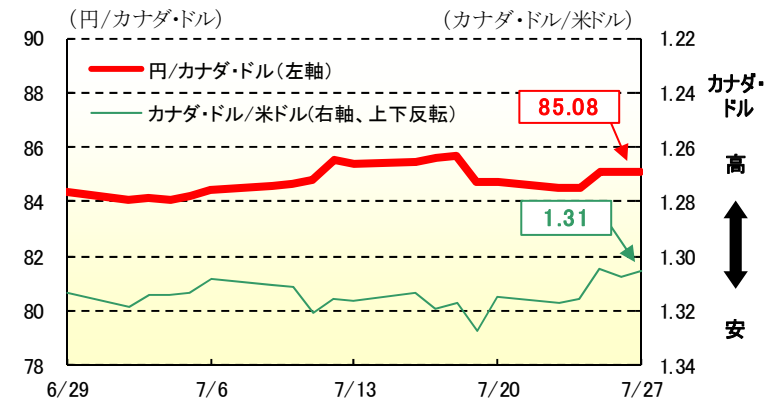
【2018年7月21日～2018年7月27日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

週前半のカナダ・ドル円は上値の重い展開となったものの、米国とEU(欧州連合)の間での首脳会談を受けて貿易摩擦の緩和期待が強まると、市場のリスク回避姿勢が後退しカナダ・ドル円は上昇基調で推移しました。また、米国をはじめ主要先進国で金利が上昇したことを受けて、カナダでも金利上昇が優勢となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年6月29日～2018年7月27日)



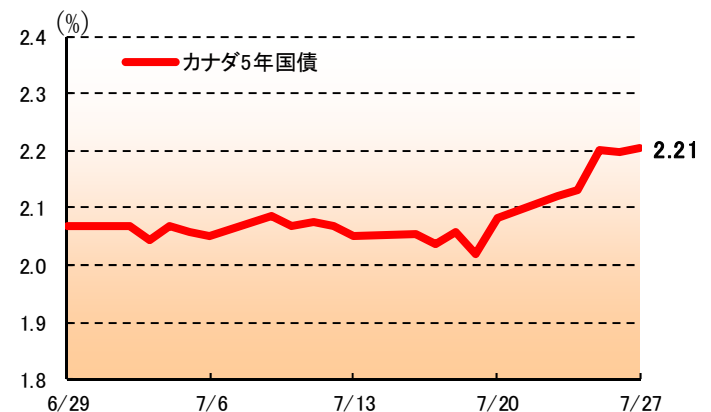
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週は、5月のGDP(国内総生産)や、製造業PMI(購買担当者指数)などの経済指標が発表される予定です。

また、NAFTA(北米自由貿易協定)の再交渉の行方には引き続き注目が集まります。これまでは年内の妥結は難しいと考えられてきたものの、米通商代表部の代表が8月中の暫定合意の可能性に言及するなど、年内合意の機運が高まりつつあります。通商問題の不透明感が後退することはカナダ・ドルへの追い風となる一方で、米国がカナダに譲歩を迫ることも予想され、各国の駆け引きに注目が集まります。

【カナダ 金利推移】 (2018年6月29日～2018年7月27日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>